

桐の研究

1 桐の魅力と現状

キリは国内の樹木で最も軽く、強度も大きく狂いが少ないため、古くから琴などの楽器、タンス、下駄、高級品を保管する箱などにも利用されて来ました。また桐はその神秘的な魅力から豊臣秀吉の家紋や日本国政府の紋章、大学や高校の校章など、さらには500円硬貨にも利用されており、日本人との関わりは少なくありません。














2 桐の現状

昭和後期より中国やアメリカからの安価な桐が輸入され、国産桐の価格が暴落し、生産者は急激に減少しました。今でも質、量において最も優れているのは会津産であり、強い需要がありますが、生産者が高齢化するなど今後生産技術そのものが失われる危機にあります。

3 私たちの取組み

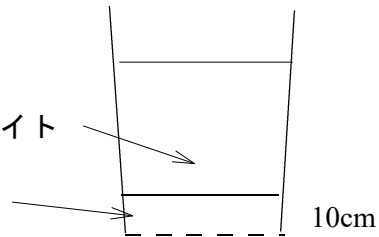
福島県では令和2年度から桐生産の復活を目指し桐生産者プロジェクトチームの応募がありました。森林環境科ではその実現に当たり具体的なデータを得るために、試験栽培をすることにしました。今回はその取組みについて紹介いたします。

| | | |
|---|---|--|
| <p>【1】 3月29日福島県林業研究センターの手代木さんより玉苗生産についてご指導いただきました。苗生産に必要な物など直接見せていただき大変助かりました。感謝申し上げます。</p> |  |  |
|---|---|--|

| | | |
|---|--|---|
|  |  |  |
| <p>【2】 ポット栽培での学校に必要な物をそろえました。</p>  | <p>【3】 4月中旬に播種しました。1ヶ月遅れです。</p>  | <p>【4】 一般の培土にも播種しました。箱は調理業務用です。</p>  |
| <p>【5】 花卉部門ガラス温室苗を借用。鉢には箱に灌水します。</p>  | <p>【6】 発芽した鉢だけを残し、管理します。</p>  | <p>【7】 ハイポネックス1000倍液を用意します</p>  |
| <p>【8】 培液灌水で水色です。これも鉢に灌水せず箱に入れます。</p>  | <p>【9】 3日ほどでアオコが発生します。交換します。</p>  | <p>【10】 φ=30mm の鉢を用意します。40mm が望ましい。</p>  |

鉢の構造は軽石の上にバーミキュライトを重ねます。軽石の厚さは10 cmとし衣装ケースの水量が一定になるようケースに穴を開けます。
桐がある程度成長知れば水位を半分の5 cmにし、根の生長を助けます。

バーミキュライト
軽石



| | | |
|--|--------------------------------------|-------------------------------------|
| | | |
| <p>【11】 鉢の底から10 cmのところマジックで印をつけます。</p> | <p>【12】 軽石の代わりに、庭用の軽量の砂利を用意しました。</p> | <p>【13】 軽量砂利をマークに合わせ10 cm投入します。</p> |
| | | |
| <p>【14】 順次水洗いをし水を浸透させます。</p> | <p>【15】 バーミキュライトを投入します。</p> | <p>【16】 桐苗を鉢替えします。</p> |
| | | |
| <p>【17】 イネの育苗ハウスで栽培します。</p> | <p>【18】 合計17本できました</p> | <p>【19】 どんどん成長します。水管理はきつくなります。</p> |
| | | |
| <p>【20】 路地に移動します。菌や害虫に注意します</p> | <p>【21】 ウルシと桐の管理 一石二鳥です</p> | <p>【22】 葉が大きくなり三角形の形状に配置し、光量確保</p> |
| | | |
| <p>【23】 害虫の検査</p> | <p>【24】 2リットルペットボトルで灌水の改善が図れる。</p> | <p>【25】 現在の桐です</p> |